順位	氏名（議席）	発　言　の　要　旨	答　弁　者
9	川窪　吉男（３０）	１．馬車鉄道と紙のまち富士市の歴史について 　昨年10月、鉄道開業150周年を迎えました。全国各地でグッズ販売等いろいろなイベントや記念行事が開催されました。本市でも、11月26日にふじさんめっせで、地方鉄道サミットin FUJI＆地方鉄道フェア2022が開催され、多くの入場者でにぎわいました。 　そこで、富士市の鉄道の歴史を振り返ってみますと、紙のまち富士市として発展した今日、表題の馬車鉄道の歴史を語らなければなりません。 　1872年（明治５年）10月14日、日本初の鉄道が新橋－横浜間に開業しました。これを境に日本の交通事情が変わってきました。そして、1889年（明治22年）の鈴川駅（現吉原駅）の開業で、紙の製造技術も変わってきました。江戸時代からミツマタを原料にした駿河半紙が主流産業でしたが、開業したことで富士山麓の豊富な湧水や木材チップを利用した本格的な洋紙産業が始まり、鷹岡地区の入山瀬に富士製紙第一工場が建設され、操業を始めました。 　この建設に当たり、当時は東海道線が静岡駅まで開通していましたので、欧米から輸入した機械類は横浜港から清水港に陸揚げされ、鈴川駅（現吉原駅）まで汽車で運ばれてきました。そこから入山瀬の工場建設現場まで運びましたが、道路状況は極めて悪く、大変苦労して運んだそうです。 　このため、1889年（明治22年）、新道建設の必要性が持ち上がり、大宮新道が開通しました。翌年、その新道に２本のレールを引いて線路を走る馬車鉄道（鈴川－大宮間、14.1キロメートル）が開業しました。人なら10人から15人くらいまでが乗れる箱型の車を馬が引く乗り物です。また、人だけでなく郵便物や資材、木材パルプ等も運搬しました。 　その後、木材チップを原料にした本格的な製紙工場が次々と建設され、今日の紙のまち富士市を形成する土台となり、運送業をはじめ様々な企業が発展しました。しかし、この紙のまち富士市誕生に大きく貢献した馬車鉄道の歴史に触れるような看板等はありません。 　そこでお伺いいたします。 (1) 馬車鉄道の軌道の跡に案内看板等を設置して後世に語り継ぐべきではないでしょうか。 (2) 馬車鉄道の歴史を富士市の観光ルートの１つとして整備できないでしょうか。	市　長 及　び 教　育　長 担　当　部　長